



例年に比べ短い夏休みが終わり、1~2年次のみなさんは第2回のスタディーサポートを受験しました。手ごたえはどうでしたか?以前、利府Styleでお伝えしたように、解答冊子が手元に届きしだい、間違った問題について徹底的に復習してください。

3年間の中で、1年次秋は学習面で最も大切な時期です。また、2年次夏以降は部活動で中心となることもあり、利府高生にとっては、いかに学習と部活動を両立できるかが試されます。3年次は目の前の目標に向かって……。まだまだ、残暑が続いていますが、がんばっていきましょう!

新企画

進路指導室にいると、数多くの企業の採用担当者や大学・短期大学の入試担当者の方々にお会いする機会に恵まれます。ぜひ、直接みなさんに聞かせたいお話をいただけることも多いのですが、なかなかそのような機会を設定するのは難しいのが現状です。

そこで思いついたのが、進路情報を利用して、企業や大学・短大の採用、入試担当者の方々の声を直接届けることができないかということです。早速、第1回です!

第1回

仙台白百合女子大学 人間発達学科 遊佐 重樹 学科長が語る「学びの魅力」



(1) 進学先を検討するにあたり、考えておくこと。入学後に伸びる学生とは・・・?

大学進学は人生の大きなターニングポイントになります。その後の進路や就職先だけでなく、何を学び、誰と交流するかは、若いあなた方に大きな影響を与えます。先生や両親のアドバイスに耳を傾ける一方、自分の意思で選択してください。

とは言え、自分の明確な未来予想図を描いている人は少数で、多くの高校生は働くことのイメージさえ持てないと思います。加えて、今世界は予想もつかない事態に見舞われ、不安ばかりが募る日々ではないでしょうか。こういう混沌とした時代こそ、自分と社会との関わりをじっくり考えてほしいのです。

皆さんは今、当たり前のように大学進学を考えられる境遇にいたることが、いかに恵まれたことか自覚がありますか。恵まれた人は、将来それを社会に還元する義務があります。何がしたいか、何の役に立てるかを考えると、自ずから「入れるならどこの大学でもいいや」という発想はなくなるはず。自分で決めたことだからこそ、向学心も知識欲も湧いてくるのです。入学後に飛躍的に伸びる学生は、いち早く学ぶ目標を見つけた人だと言えます。

大学では自分の専門以外の学問も勉強します。私は、何となく履修した科目が目覚しく新鮮で興味が引き立てられた経験があります。天文学や統計学など高校時代の自分には想像できない科目で好成績を取ったりしました。大学はすぐに役に立たなさそうなことを学問として学ぶ所だと知りましたが、それが教養というものだとわかったのはずっと後のことです。自分で自分の限界を決めてはならない。役に立たない勉強などないという教訓を得ました。

さて、何を専攻するにしてもやはり英語は必要です。英語は苦手という高校生は多いですが、目標を持ち、主体的に取り組むと、ある時点から急上昇するのが英語力です。いずれ皆さんは社会の中枢を担う時が来ます。どんな貢献ができるか、今こそじっくり考えて進路先を検討してください。

(2) 所属する大学の一押し情報と魅力



--- 人間発達学科では ---
白百合の歴史を活かした英語に強い
小学校・幼稚園教諭、保育士を育てます



仙台白百合女子大学人間発達学科では、小学校・幼稚園教諭、および保育士の養成を行っています。が、全ての学生が入学時から明確な職業観を持っているわけではありません。子どもが好き、音楽や図画工作が好き、という漠然とした理由でこの学科を選んだ学生も多くいます。「ピアノは初心者。英語も苦手ですが先生になれますか？」という質問もよく受けますが、答えは「なれます。どんな学生も資格を取り、就職して活躍しています」です。

学生たちは勉強を進めていくうちに、子どもを教育する仕事の奥深さに驚かされるようです。人間の発達や子どもの心理を科学的に学び、芸術や体育を通じて創造する楽しさを体験するなど勉強する分野は多岐に渡ります。机上の勉強と並行して1年次から実習が始まります。現場の先生から話を聞いたり、直に子どもたちと触れ合う中で、学生たちは職業に就く自覚が芽生えてくるのです。

私の授業で「子どもに英語なんて教えられるだろうか」と口にしていた学生が「どうやったら教えられるだろうか」と考え始めるのが変化の兆しで、教授法を見直し、教材を工夫して思案を巡らします。相手の視点に立って教え方を考えることが自分の英語力アップにつながることに、やがて学生たちは気づくのです。

知識、技術、体験を積んで、3年生になると実習先で堂々と振る舞う学生の姿が見られます。まだ未熟であっても彼女たちには覚悟と使命感があり、その成長と変化にはいつもながら驚かされます。

仙台白百合女子大学は小規模の大学ですが、設立母体であるシャルトル聖パウロ修道女会に関連する学校や施設が世界各地にあります。女学校として仙台で女子教育を始めたのが1893年。短大開設は1966年で、4年制大学となって今年で25年目を迎えました。小規模大学の利を生かし、人を愛し育むカトリックの精神を持って教職員が一人ひとりに丁寧に指導することをモットーとしています。

(3) 高校生に望むこと。アドバイス

進路選択にあたり、悩んだり周囲からプレッシャーを受けたりする高校生は多いことと思います。迷ったら10年後の自分を想像してみてください。自分はどう生きたいのか、何がしたいのか。進路を考えることは自分に向き合うことです。まだ何者でもない、若いあなた方に許される貴重な時間です。

仮に思い通りの進路に進めなくても、選択に後悔しても、それは決して世界の終わりではありません。立ち止まって考え、修正すればよいのです。自己責任という言葉が横行していますが、世界はもっと寛容で柔軟です。

私自身も紆余曲折した道のりを経て、現在の仕事に就きました。勉強嫌いで漠然と海外を夢見るだけだった私は、高校卒業後自立して働きながら専門学校を卒業しました。会社員として働いていた25歳のある日、天啓のように「留学」を思い立ちました。社会人になって生まれて初めて勉強したくなったのです。当時既に結婚していましたが、妻の理解と支えを得てアメリカに留学しました。それから7年、大学と大学院を卒業し、縁もゆかりもなかったこの仙台に、導かれるようにして職を得ました。人生は思いがけない展開の連続で、私は数々の幸運と人に恵まれましたが、アルバイトと勉強で明け暮れたアメリカ生活の中でも、苦勞と感じたことはありませんでした。

高校生の皆さん、世界はあなた方が思うよりずっと広いのです。選択肢は無限です。自分の進路を考えることこそが、自立した人間への第一歩です。心から応援しています。



大学・短大、企業を問わず連載を続けていく中での、**キーワードは「なぜ、学ぶのか?」**です!

みなさんの進路選択肢や進路に対する視野を少しでも広げることができればと思います。

今回紹介した、仙台白百合女子大学人間発達学科のブログと遊佐重樹学科長の夢ナビライブ講義のQRコードを最後に紹介します。

今まで進路について考えたことは無くても、少しでも興味をもった「あなた!」今が視野を広げるチャンスです!!

《ブログ》



《講義》

